

はじめに

平成十一年頃から気紛れに社内新聞を発行していた。史上最小のミニミニ情報誌と銘打って、大きさはA3サイズで片面。パソコンで作りプリンターで出力。全面カラーだが僅かに二十部。遊びである。計画性の無いまことにいい加減な発行で、名前のとおり社内限定。少し増し刷りして親しい方に配ったりもしたが、量はしれている。史上最小にそれほど偽りはない。空前のバブル景気のはじけて、銀行まで二進も三進もいかない頃のことである。失われた十年とも十五年ともいわれ、景気が一向に戻らない時期にも関わらず呑気な事だった。この間に二十世紀が終わった。オリンピックだけでも足掛け三回を数えた。

時代が変わる。スペインの無敵艦隊は遠い過去となり、七つの海を支配した大英帝国も昔日の勢いは無い。世界標準を声だかに唱えていたアメリカがついにおかしくなってきた。古代のあのローマ帝国でさえ滅びている。巨大化した恐竜が自重で潰れるように、どのような巨大帝国も永遠には続かない。物には程よいサイズがあるようだ。

さて、この十年を一緒に歩いた社内新聞を、このまま捨て置きにするのも忍びがたく、本にまとめてみた。とおに賞味期限切れがあちこち混じっているのはご容赦願いたい。いささか私事に入り込んだ記述も出て来るが、新聞の性格上これは仕方がない。

こころでちよつと、ひと休み★目次

はじめに……………1

サンワニュース 第一号（平成十一年二月二十三日発行）

世界に吠える……………11

背広の男……………13

K常務またもやバッグ紛失か。……………15

《ウエストミンスター寺院》の鐘の音……………16

私の修業時代……………17

H君スキーで骨折……………19

風評被害（痛風）……………20

サンワニュース 第二号（平成十一年三月二十三日発行）

創業の頃……………25

結婚式泥靴事件……………27

私の修業時代……………29

不審な看板発見……………31

人斬り半次郎……………32

やじうまクラブ……………34

挨拶と笑顔について……………35

グリーン博用ポスター失格？……………36

今月の「国を思えば腹がたつ！」……………39

真昼のディナー……………40

サンワニュース 第三号 (平成十三年一月十日発行)

編集前記……………45 今月のチョッシモタ(シ、シマツタ)……………46

串間あたりで見つけた看板……………47 少し古いけどシドニー……………49

もうちよい古いけど衆議院選挙ポスターにイチャモン……………52

製作課の皆さんの新年の抱負……………56

日の丸はダメという勢力があります。……………57

某月某日某所で聞いた某氏のグチ……………58

サンワニュース 第四号 (平成十三年六月十日発行)

南国にめずらしく雪……………63 社長もスミにおけんど……………64

あえて言うぞ、近頃の若い者は!……………66 私の修業時代……………67

「国を思つて何が悪い」……………69

ピンタンキタド! (頭に血がのぼった!)……………71

今月のチョッシモタ……………72 クイズ わたしは誰でせう……………74

ニュースキャスターを評論…… 74

サンワニュース 第五号【最終号】（平成十三年七月十日発行）

終刊号です。…… 79

みりん少々脱線少々…… 80

アダンの画帖『田中一村伝』…… 81

ついに見つけた宝物…… 84

クイズの答え陸奥宗光夫人でした。…… 88

某新聞のコラムに抗議する。…… 89

奥様訪問…… 90

今月の黙示録…… 91

内閣総理大臣談話…… 92

サンワニュース外伝 第一号（平成十九年七月二十日発行）

ご無沙汰しました。…… 95

無印不良品…… 96

騒音おばさん登場…… 98

珍しい車を見かけました。…… 99

その後のチンガラッ…… 100

トリノ発七時五十分…… 102

代表、またも自作自演か？…… 109

サンワニュース外伝 第二号 (平成十九年七月三十日発行)

男女共同参画について……………	113	洋子ちゃんに、イチャモン……………	115
中越沖大地震……………	117	黄金蜘蛛……………	119
砂糖でシュガー……………	121	「お釣り」……………	122
方言讃歌……………	125	無題……………	123
			119

サンワニュース外伝 第三号 (平成十九年十月二十日発行)

祭り……………	131	廃屋にシロアリ対策！……………	134
《東海》か《日本海》か……………	135	風力発電用風車……………	136
携帯電話……………	137	方言発見……………	138
Nテントの久保田さんからのメール……………	140		

サンワニュース外伝 第四号 【最終号】 (平成二十年一月二十二日発行)

カッコウ大作戦……………	145	ホーロー看板の誘惑……………	147
郵便ポスト……………	149	馬鹿馬鹿しいざれ唄をむかしは良く聞いた。……………	150

ごま塩さん……………151

心療内科に行きたいな……………154

島津屋敷……………155

白スズメ……………157

日本橋人形町の報告……………159

落穂ひろい

求人広告 その一……………163

求人広告 その二……………165

ゴッタン……………168

「確率半々は必ず悪い方に転ぶ」……………172

高速道路居眠り事件……………173

山崎ハコのコンサート……………177

その後の都城島津邸……………178

パン屋の娘……………180

日当山温泉……………181

薩摩迫……………182

《後はどんぶり勘定よ!》……………184

検問……………186

資産運用にいかがですか。……………187

電子メール……………188

あとがき……………196



史上最小のミニミニ情報紙

サンワニュース

発行 平成 11 年 2 月 23 日

第 1 号

世界に吠える

最近マスコミにやたらとヘッジファンドが登場します。なんじやろかいと、経済音痴がさつそく調べました。細かい事は分かりませんがカンで掴める事があります。印象で言いますと（ヤマカン表現ですみません）ヘッジファンドを巨大なねずみ講とみました。金融の商品取引、巨大ババぬきゲームは、どう考えても日本人には向きません。大怪我をしない内に手をひいた方がいいと思うのですがどうやら手遅れになっているらしい。

素人向けに文春新書で手頃な本がでています

『ヘッジファンド』世紀末の妖怪と云う副題がついています。十九世紀末にヨーロッパを徘徊した妖怪が共産主義なら、二十世紀末はヘッジファンドという意味でしょうか。前者は共産主義ソビエト連邦を作り、最後は自滅させました。後者は、或いは資本主義に引導を渡すかもしれません。

本来《投資》とは、企業の成長を金融で側面から支援する事、その報酬として何がしかの果実を得ることだったはずです。会社は、資本と経営と社員三者のものだったはずです。

法律は別にして、日本にはこのような社会的不文律が間違はなくありました。資本側にも
憤みがありました。全社一丸となつての全力疾走・戦後復興の奇跡はここからおこつてい
ます。だからこそサービス残業だつて苦にならない。終身雇用と年功序列は日本の武士道
から来ています。何が悪いのですか。これこそ日本式経営の良いところなのです。アメリ
カはこれが妬ましく疎ましかつたのですね。グローバルスタンダードの野蛮なスローガン
に木っ端みじんに碎かれました。やがて勝組と負組とがはつきりと別れます。唐突なよう
ですが、それが白人社会とその他の世界にならない事を祈りたいものです。こんなことを
いうのも、この金融戦争は、狩猟民族たる白人社会がじつくりと計画を練つて、最終的に
世界に仕掛けてきた罠のような気がしてならないからです。このことは一九八七年の段階
で大森実が、『恐慌が迫る―アメリカの報復』（講談社刊）の中で、好景氣に浮かれ騒ぐ当
時の日本に、見事な警鐘を鳴らしていました。

冷笑されている日本人投資家・隠蔽された大手保険会社の赤字・日本人が稼ぎアメリカ
人が使う・銀行が借金踏み倒し・経済総カジノ化等など、今を予測して見事な程です。ア
メリカ国債を山ほど押し売りし、償還時になるとドルを見え見えで切り下げて、日本に根

こそぎ被害をあたえます。一所懸命働いてようやく貯めて人に貸したのに、ぼろぼろに値崩れしたもので返される。切り上げてまた売りつける。この繰り返しで、決して日本の投資は回収できないのだそうです。

最終兵器としてのヘッジファンドは、今だに正体が解らないし、背後に何がいるのか闇。その情け容赦のないアジア荒しの様は、あのマハティールに金融強盗よばわりされました。妖怪は順番に標的を決めているかも知れません。そこらを見破り、リスク覚悟で敢然とただ一人、金融鎖国に入ったマレーシアのマハティールは凄い。

尚、当社をヘッジファンドが狙っている気配は今の処ないようです。

背広の男

名誉の為に申し述べます。これは当社代表の話ではありません。代表がUターンしてしばらくお世話になった会社の元社長Nさん（明治はイノシシ年生まれ）のお話。そろそろ時効なので情報公開を一ついたしやしょう。他にも愉快な話が多々あるのだが教えない。

夏の暑い日だったという。隼人町の焼酎メーカーから呼びつけられる。とにかく暑い。車のクーラーも普及していない時代である。窓を開け放ち敷根の坂を爽快に駆け下った。ここまでは順調である。ところが、目指す会社の正面に停車した社長は、ある事実に気付き愕然とした。打合せの資料を忘れて来たなどというなまやさしい話ではない。車に乗せたはずのズボンが無い。

あまりの暑さにこの社長、ズボンは後ではこうと下半身ステテコ姿で運動していたという。そのズボンが無い。何処にも無い。どうにもならぬ。ただ上着の背広は着ていた。

——それでどうしましたか。

——どうもこうも無い。出直すには時間がないしなあ。仕方が無い。(今みたいに携帯電話という便利なものは無かった)

真夏の暑い午後の事、上半身背広、下半身ステテコ姿の初老の男が、突然受付に立った。受付嬢が呆然と見ています。その後の悲惨な顛末は省く。

K 常務 またもやバッグ紛失か。

とかく物を無くす事に実績と定評のあるK常務が、今度は大切なバッグを無くした模様です。以前からK常務、無線機を取られたりカメラを盗まれたりとやたら忙しい。まことに懲りない男です。中には全財産が入っていたらしいのですが、実はこのバッグ、ダレソレさんからのプレゼントであった疑惑が浮上しております。既婚者のくせにですよ。ふとどきじゃないですか。奥さんにまねちゃうぞ。(いい気味ですね。密かにザマミロと言いたい)しかし、いかに気前が良いとはいえ、ついでにカードまで捨てたのはやはりまずかったです。今回の原因等の詳細事項は、武士の情けで公開しない事にするが、うっかりでは済まされんです。この上は、間違つて奥さんまで捨てない様に。いや、違うな。ここはへ奥さんから捨てられない様に。だな。

小生の知り合いの知り合いが、ある日自宅に戻ると、持ち物一切が木戸口に投げ出されていたといいます。そのまま家をたたき出されたのだそうです。恐いですね。

《ウエストミンスター寺院》の鐘の音

十五日程頑張っていた時報が壊れ不便をかけておりましたが、この度新しくとりかえました。綺麗な鐘の音がしますね。ウエストミンスター寺院の鐘の音です。学不足で、ウエストミンスター寺院が何処にあるのか、知らないのですが、日本にいながらヨーロッパの気分が楽しめます。そこでウエストミンスター寺院をインターネットで調べてみました。ロンドンにあるイギリス国教会のすごい寺院のようです。戴冠式などの王室行事がここで執り行われ、寺院内に各界の偉人が多く埋葬されています。一部を紹介しましょう。

ロバート・ブラウニング、ディケンズ、トーマス・ハーディ、キップリング、ヘンデル、ローレンス・オリヴィエ、アイザック・ニュートン、ラザフォード、チャールズ・ダーウィン、デイヴィッド・リヴィングストン。
……すごいすごい。



ウエストミンスター寺院

時は春／日は朝／

朝は七時／片岡に露みちて／

揚雲雀なのりで／蝸牛枝に這ひ／

神、空に知ろしめす／

全て世は事も無し。(ロバート・ブラウニング、「海潮音」より)

私の修業時代

常務
川口紀生



和製ルノー・ベルレー 三十年前、十九歳頃の川口さん。
ジャニーズ系の美少年の頃。

ウソー、信じられな〜イ!

髪もまだ黒い。道を間違ったのではないか。
そこのアイドルよりはるかにカッコいい。

東京は赤坂勤務だったらしい。

※専門用語か業界用語か、奇怪な言語が乱舞しております。幻惑されないように。

「おしゃべりな奴」男のくせにあいつはおしゃべりな奴だと言われる人が居るよ。でもそういう人に限って大っきな仕事はしてないぞ。俺達はワンワン・ニャンニャンだけじゃ無く、愛を伝える言葉を持ってるんだ。

社内新聞を出す事にするから、第一号として、私に「修業時代」の話を書いてくれないかと編集長から依頼があった、私は物を書くのはどっちだったらにがてなんだ。じゃあ、話をするのと言うと、こっちも大のにがて。向こうで仕事をしていた時は、へたすると一日中、一週間位、誰とも話をしない事もあったつけ。でも朝の挨拶と、帰る時の挨拶だけは人一倍元気よかったな。そう、今のMさんぐらい、何んでそんなに話をしなくて良かったかという話は次回に置いといて、

昔のコマーシャルに「男は黙ってサッポロビール」つのがあったな、今は亡き「世界の三船」かつこよかったなあ。社会に出ていろんな上司が居たけど、必要以上に説教たれる奴よりも「男は黙って」失敗した奴の言い訳を聞き、最後に、「駄目だな」って、たった一言で俺らに反省を促す上司、ほんとこれが一番キツカタね。だってこの人、一番難

しく辛い仕事を先頭に立ってやっていたもん。カッコよかった。憧れてもいたから気に入ってもらおうと一生懸命やった、この人を「まねる事」を。「仕事」も、そして「男は黙って、おしゃべりな奴」って事も。

仲間とつるんで大声出すのは誰だって出来るんだって。自分の意見をはっきり相手に伝える、たとえば百対一のべしやりの場でも、俺達ちやワンワン・ニャンニャン夜中に吠えるだけじゃないんだって、「口ん中でもこもこゆったって先様にや判らんぜ、べしやりが出来ねえんなら、挨拶あー短かくて済む、たとえば相手が年下さんでも俺っちから先に大きな声で挨拶すりやあもうこつちの勝ちよー」

何だか変な理論だが、あんな上司、なかなかいない。大変おもしろうございました。おかげさまで少しは人様の前で「おしゃべりな奴」になることができた様な気がします。

H君スキーで骨折

今年の冬は大変寒くインフルエンザがはやりました。寒さに負けず仕事にレジャーに張

り切っていたH君が、スキーかスケボー又はスノーボードで転んで右腕をうつごり（骨折）しました。（九州にも一カ所五ヶ瀬にスキー場があります）。骨折ですので完治には時間がかかる模様です。その間は皆で助け合い頑張りましょう。詳しい情報が入り次第、次号でまたおしらせします。感心なのは（？）右手を吊ったまま片手で車を運転し、会社に報告に来たこと。しかし危ないので今後はやめよう。

そういえば、本を読みながら運転する癖を持つ不屈き者が昔から当社に約一名いる。心を入れ替える様にこの際、厳しく要求するものである。

風評被害（痛風）

ある朝我が社の代表が気がかりな夢から目覚めると、もはや自力では歩けない事に気がついた。「変身」を思わせる始まりですが本当の話です。両足首が猛烈に痛み動くに動きません。起き上がろうにも体重を支えられない。日頃の運動不足とも思えない痛みです。這って部屋を移動しました。まるで江戸時代のイザリめくらの類です。差別用語反対を言

わないで下さい。何しろ本人がそのようなだったというのですから。症状から考えられるのは一つしかありません。情けない事に「痛風」です。そういう歳でもないでしょうにどうしちまったんでしょう。痛風は美食の果て（特に肉食）と言いますね。その意味では少しおかしいのです。代表はむしろ粗食で、殆ど菜食主義者に近い。メザシと豆腐が好物という安上がりさですから、どう考えても痛風にはほど遠い食生活です。松葉杖が無いので木刀で体を支え、奥さんに支えられ（こんなときだけはすぐ奥さんですよ）整形外科に倒れ込みました。先生の見立ても痛風の可能性あり。痛み止めを打ち、薬を貰いとりあえず仕事を休む。この痛みが続くなら当分仕事には出られない。暗澹としたといいます。ところが二日程で痛みが消えて会社に復帰できました。この歳で痛風は無いでしょう。良かった。寝ながら考えたが思い当たる事がありました。風邪を酷くこじらせ珍しく一週間程倒れました。病み上がりで出社した日、綾の町に走り病院の屋上に登っています。階段が無かったので、外壁に埋められたタラップを一段一段登ったそうです。病み上がりでこれを数回繰り返す。その日は何ともなかったが翌日がああ朝になります。一週間寝ていて脚が弱っていた所にあんなタラップ乗り降ります。アキレス腱をいためたのが真相でしょうね。その後痛風らしき症状は全くないのでほぼ間違いないでしょう。さて問題はその後です。

頼みもしないのにK常務、あちこちに電話しまくり、痛風だ痛風だとお客様にまで連絡したという。この事をどう考えますか。おもしろがっているとしか思えませんね、電話のしゃべりがうれしそうだったそうです。代表は既に回復しているんですよ。声を落とし、内緒話でもする様にこそこしゃべっています。昔の西鉄ライオンズみたいですね。稲尾がピンチになる。ショートの豊田がやってくる。安心しろ、守ってやる、とは決していない。

——俺のところに打たせるなよ、ミスするからな。



史上最小のミニミニ情報紙

サンワニュース

発行 平成 11 年 3 月 23 日

第 2 号